

# 加山興業株式会社

| 項目      | 内容   |
|---------|--|
| 1.企業情報  | <ul style="list-style-type: none"><li>● 業種：サービス業</li><li>● 事業概要：産業廃棄物、特別管理産業廃棄物、一般廃棄物収集運搬・処分業、解体業、環境機器及び用品販売事業、養蜂事業</li></ul>  |
| 2.削減目標案 | <p>&lt;Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み&gt;<br/>目標：廃棄物処理業者ならではのシステム上の都合（焼却時CO2排出）により、CO2削減が実質的に困難なため、目標設定については今後も考え続けていく。<br/>取り組み：バイナリー発電設備及び太陽光発電設備導入により環境負荷を削減する。<br/>なお、現在稼働中の工場・オフィスで使用する電力は全て再生可能エネルギー電力を購入している。</p> <p>&lt;Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み&gt;<br/>サプライヤーへの環境負荷削減が見込める電力契約促進による再エネの普及。</p> |

# 加山興業株式会社

| 項目   | 内容  |           |     |       |     |              |     |  |
|--|---|-----------|-----|-------|-----|--------------|-----|--|
| 3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]   | <ul style="list-style-type: none"><li>● Scope 1・2・3の排出量の状況</li></ul> <p>スコープ/カテゴリ別排出量</p> <table border="1"><caption>スコープ/カテゴリ別排出量</caption><thead><tr><th>スコープ/カテゴリ</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>スコープ1</td><td>60%</td></tr><tr><td>スコープ3(カテゴリ1)</td><td>40%</td></tr></tbody></table> <p>■ スコープ1 ■ スコープ3(カテゴリ1)</p> | スコープ/カテゴリ | 割合  | スコープ1 | 60% | スコープ3(カテゴリ1) | 40% | <ul style="list-style-type: none"><li>● SCOPE1 : 18,727 [tCO2]</li></ul> |
|  |   | スコープ/カテゴリ | 割合  |       |     |              |     |  |
|  |   | スコープ1     | 60% |       |     |              |     |  |
| スコープ3(カテゴリ1)   | 40%   |           |     |       |     |              |     |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>● SCOPE2 : 0 [tCO2]<br/>※再エネ調達済</li></ul>                |   |           |     |       |     |              |     |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>● SCOPE3 : 12,315 [tCO2]<br/>目標の対象セクター : カテゴリ1</li></ul> |   |           |     |       |     |              |     |  |

# 加山興業株式会社

| 項目                      | 内容   |
|-------------------------|--|
| 4.気候変動によるリスクと機会の分析      | <p>【リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● CO2排出量の国際的な規制・開示義務が強化され、さらなる排出量削減に向けた取り組みの要請が出てくる可能性がある。</li><li>● 原材料調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れによって工場の稼働停止が懸念される。</li></ul> <p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 新規工場稼働による事業成長が見込め、それに伴う省エネ機械投資の増加が期待できる。</li><li>● 再エネの普及や積極的な情報開示によって企業価値が向上し、新たなビジネスチャンスが生み出される可能性がある。</li></ul> |
| 5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など | <ul style="list-style-type: none"><li>● 産業廃棄物処理を事業としているため、環境配慮への関心は強く、2016年からオフグリッドシステム、再エネ導入の取り組みを開始した。</li><li>● 国際的な目標設定基準であるSBTを取得することにより、企業の信頼度が向上し、ビジネスチャンスを拡大することが期待できると考えている。削減水準は今後も引き続き検討。</li></ul>   |

# 加山興業株式会社

| 項目                | 内容   |
|-------------------|--|
| 6.目標設定のプロセスと社内の議論 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 社内環境委員会においては、現状・目標の数値を算出することで、CO2排出量削減に向けた取り組みの必要性を共有できた。</li><li>● 項目2（削減目標案）でも述べたように、事業のシステム上の都合によりCO2削減が困難であり、加えて新規工場稼働によってCO2総排出量が増加する見込み。（また現在、既にScope2の電力に関しては再エネを調達済みでゼロである。）そのため基準を直近年にした場合、現段階での目標設定の見通しが立たない。</li></ul>    |
| 7.今後の課題           | <ul style="list-style-type: none"><li>● Scope1の削減のためには、廃棄物処理における焼却時CO2排出の削減が必要となる。海外では廃棄物処理として埋立が一般的であり、焼却はCO2排出の面からも奨励されていない。一方で日本国内では国土の制限もあり適切な焼却処理は必要な手段である。埋立には埋立の環境負荷もあるため、焼却処理の評価向上と廃棄物処理業での削減手法の確立が必要である。</li><li>● Scope3・カテゴリ1の削減のためには、サプライヤーとの協働が必要である。</li></ul> |